

(様式1) 平成 21 年度

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2870200629		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア灘		
所在地	兵庫県神戸市灘区灘北通3丁目1-15		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	平成22年2月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102
訪問調査日	平成21年12月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「生活の主人公」である利用者スタッフが日々さまざまなことに挑戦するオリンピア灘は、「チャレンジ」をテーマに多彩な取り組みを実現している。全国に広がる以前より導入しているセンター方式では、今年より「アセスメント」に重点を置き、スタッフ全員と利用者ご本人、ご家族がひとつの「チーム」として情報をとりまとめることにより、ケアの充実をはかる「チーム・アセスメント」を行っている。「チーム・アセスメント」による学びの多さとケアに現れる効果はめざましく、法人内の研修では「新しいセンター方式」として研修テーマになる程の注目を浴びている。又、盛んに行われる職員研修にスタッフが意欲的に参加し、昨年に比べてケアの質が格段に高くなり、デイサービスからグループホーム入居への流れが定着したことで、地域から更に厚い信頼を獲得している。地域と支え合う関係をますます強めながら、常に前向きに、新しい目標に向かって「チャレンジ」することで成長し続けるオリンピア灘は、今後も日本国内だけでなく「世界へも新しい介護」を発信する拠点として、日本の福祉を担う使命に応える運営を行っていく。

**【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域に開かれた高齢者福祉を目指す法人の理念を基盤にしつつ、「生活の主人公である利用者の誇りを持った暮らしを、イエス・キリストの愛と奉仕の精神を持って支援する」ことを、職員一人ひとりが自覚し実践している。法人内では、新人研修や経験・習熟度に応じた現任研修など学ぶ機会を多く設け、フォローアップ体制が充実している。また、柔軟できめ細やかなサービス提供をしていく為に、職員からのアイデアや提案を積極的に業務に活かせる取り組みもある。今年度は、年間行事として「オースタムフェスティバル」の開催や、より良い介護計画作成のための「チーム・アセスメント」への取り組みなどが実現され、多方面からの関心も高まっている。

**. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>高齢になっても今まで通りに誇りを持った暮らしを地域の中で安心して続けるお手伝いをさせていただくことを理念とし、毎日の朝礼において理念を唱和し、共有するとともに、実践の中で生かすために日々取り組んでいる。</p>	<p>地域密着型サービスとしての意義や役割を理解し、「生活の主人公は利用者」を基本に、利用者が今まで通りの誇りを持った暮らしが継続できるよう支援する事を理念としている。職員は、「イエスキリストの愛と奉仕の精神を持ってさせていただく」ことを念頭に、朝礼での唱和や新人研修・ミーティング等で理念について話し合い認識を深め、日々のケアで反映できるよう取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の一員として自治会に加入し、地域の行事には利用者と一緒に参加し、地元の人々と関わる機会を積極的に持ち続けている。また、日々の散歩や買い物の際に、近隣の方々と挨拶や言葉を交わす中で顔馴染みになり、近隣の方から声を掛けて頂くこともある。</p>	<p>自治会に加入し、各行事に参加するとともに、自治会での繋がりを通じて、地域住民がホームに気軽に立ち寄る機会も増している。また、保育園との世代間交流・ボランティアとの協力・キャラバンメイトとして地域へ貢献するなど、積極的な関わりをもっている。今年は、「オータムフェスティバル」を開催し、利用者・家族・職員・近隣の人々等多方面からの参加があり、地域交流の拡大に繋がった。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>法人内でのオリンピア福祉塾、介護者教室、介護リフレッシュ教室、地域での会合に講師としての参加を通して、地域の方の「認知症」の理解等に役立てて頂いている。また「キャラバンメイト」として地域の研修に講師として参加している職員もいる。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では日々の生活の様子やイベント、ホームの取り組みなどを紹介し、参加者の意見を運営に反映しサービスの質の向上に努めている。また、参加者が発言しやすい雰囲気作りにも努めている。</p>	<p>会議は2か月に1回定期的に行われ、利用者・家族・地域代表・地域包括職員・知見者・職員などの参加がある。ホームでの行事の状況や第三者評価結果・利用者の近況などを報告し、各ユニットリーダーの参加にて、より詳しく現況報告する機会もある。各方面からの意見・要望等について検討し、運営面に活かしていくよう取り組んでいる。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市担当者とは役所に出向いたり、電話等により頻りに連絡を取ったりしながら適切な指導を受けている。また、市担当者の見学、市の紹介による事業所の見学も広く受け入れ、意見交換を行いながらより良い協力関係の構築に努めている。</p>	<p>日常的に市や県との関わりがあり意見交換や助言を受けている。地域の集会での講師派遣や「キャラバンメイト」として、市との協力関係が維持されている。</p>	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)		<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアに取り組むために、法人内研修を実施し、職員一人ひとりの意識を向上させると共に、拘束をしないという強い意志を確認し合っている。また、物理的な鍵だけでなく、心理的な鍵をかけることもないように取り組んでいる。</p>	<p>「生活の主人公は利用者である」、との理念のもと、職員は利用者の立場に立ち、利用者一人ひとりを尊重し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。法人内研修にて身体面の拘束とともに心理面での拘束への認識も深めている。施設の玄関・エレベーターは日中施錠する事なく、利用者の安全面に配慮しながらも自由な暮らしが継続できるよう支援している。</p>	
7	(6)		<p>虐待の防止の徹底                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で虐待に関する研修や事例検討を実施し、虐待の危険性や早期発見の重要性、職員の心のケア法等について話し合い、職員の意識を高めることによって虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。</p>	<p>法人全体で虐待の防止に取り組み、高齢者虐待防止関連法や虐待の定義・現状を理解し、職員としての対応について学ぶ機会を作っている。研修や事例検討にて虐待の種類や程度について把握し、問題の背景を多面的にとらえ虐待の理解・防止に努めている。</p>	
8	(7)		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用                      管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人内では定期的に、権利擁護に関する制度の理解と活用についての職員研修を実施しており、日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)や成年後見制度について学ぶ機会を持っている。現在、1名の利用者が成年後見制度を利用されている。</p>	<p>「利用者が今まで通りに誇りを持った暮らしが維持できるよう支援する」ことを基本に、高齢者の権利擁護についての理解に努め、関係機関との関わり方を確認している。法人内研修にて「成年後見制度」「日常生活自立支援事業」につて定期的に学ぶ機会があり、利用している方への適切な支援ができるよう努めている。</p>	
9	(8)		<p>契約に関する説明と納得                      契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約の際には十分な時間を取り、話し合いを行い、利用者のご家族が些細な不安や疑問でも表すことができるよう雰囲気作りにも配慮し、理解・納得していただいた上で契約、解約をするように努めている。</p>	<p>重要事項説明書や契約書をもとに、契約や解約について利用者・家族に十分な時間をとって説明している。入居時の不安等をなくす為に、丁寧な対応を心掛けるとともに、入居後も家族等に疑問などが生じた場合はその都度対応できるような関係作りに努めている。契約の改定・変更については家族会などを通じ説明し、納得が得られるよう取り組んでいる。</p>	

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時、運営推進会議、ご家族懇談会等の機会を活用し、利用者、ご家族の意見などを言いやすい雰囲気作りに取り組んでいるほか、寄せられた意見や要望についてはホーム長・管理者も含め、全職員で共有し、実践に活かしている。	ご家族の来訪時、運営推進会議、ご家族懇談会等の機会を活用し、利用者、ご家族の意見などを言いやすい雰囲気作りに取り組んでいるほか、寄せられた意見や要望についてはホーム長・管理者も含め全職員で共有し実践に活かしている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアごとのカンファレンスに加えて、リーダー会、主任会、職員会、個人面談など職員の意見をくみ上げられるように、法人全体として、取り組んでいる。	研修や各会議・カンファレンス・個人面談などで、職員が積極的に意見や提案を出せられるよう働きかけている。職員から出された提案やアイデアは検討され、ケア面や運営面で反映していくよう体制を整えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の自己評価、面接等を通じて職員一人ひとりに能力を最大限発揮してもらうことを目標に、努力や実績を積極的に評価するように取り組んでいる。また、各自の向上心を引き出すために、幅広い活躍の場を用意している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員トレーニング合宿、新入職員研修、新入職員OJT、認知症ケア研修、非常災害対応研修、若手リーダー育成研修、中堅者研修などの内部研修を数多く実施するほか、各種の外部研修などを活用し、職員の能力の向上を法人として全面的にバックアップしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極的な参加により、同業者との交流や意見交換の機会につなげ、サービスの質の向上に努めている。それに伴い相互訪問の機会もあり、その際には相互の意見交換を行っている。また、宅老所・グループホーム全国ネットワークにも加入している。		

自己	者	第	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に実施する面接において、ご本人の不安や要望等を聴く時間をゆとりをもって設けている。ご本人が話しやすい雰囲気作りに配慮し、安心して新しい生活を迎えていただけるよう努めることで、サービスを導入する段階から信頼関係の確保を目指している。</p>		
16			<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族が抱えている不安や様々な要望を確実に把握するため、入居面接においてご家族の思いも十分お聴きする時間を設けている。入居後もご家族からお話を伺う機会を多く設け、その思いを受け止めながらケアに反映させることで、確固たる信頼関係の構築につなげている。</p>		
17			<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時にご本人とご家族の実情や思いをじっくりお聴きし、早急かつ適切に対応できるよう努めている。また、法人内にある多種多様なサービスも必要に応じて利用していただけるよう、スケール・メリットを活かしたサービス提供の体制づくりを行っている。</p>		
18			<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活の主人公は利用者ご本人であり、職員は生活のお手伝いをさせていただく者として、日々の喜びや悲しみを共有できる関係を築いている。また職員は、人生の先輩である利用者から生活の知恵など多くのことを学び、利用者が職員を支えるという場面も多く生まれている。</p>		
19			<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人がこれまで通りの生活を送るためにはご家族の力が必要であることをお伝えし、一緒にご本人を支える関係づくりに取り組んでいる。また、日々の生活の中で気づいたことや嬉しかったことなどもこまめにお話しし、職員の利用者に対する思いもお伝えできるよう努めている。</p>		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)		<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人が馴染みの人や場所を訪れる機会を設け、関係継続の支援をしている。また、友人や知人に電話連絡や手紙のやり取りができるよう支援し、意思表示が難しい方でも、ご家族のお話しやご本人の表情を参考に、行きたい場所に出かけていただいている。</p>	<p>初回のアセスメントや家族からの聞き取り、利用者との日常での関わりの中から、個々の利用者のこれまでの生活環境や人間関係を把握している。家族の協力のもと、利用者の思い出の地や温泉旅行に行けるよう支援し、利用者と地域社会との関係の継続に取り組んでいる。</p>	
21			<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士が共に助け合い、支え合って暮らすことの大切さを職員が十分に理解しており、利用者同士が相談して物事を決め、互いに思いやり、労る場面を常に尊重し、職員は介入しすぎることなく自然と支え合う場面作りに努めている。</p>		
22			<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス期間中に培った信頼関係を大切にしながら、サービス利用終了後も、法事などの節目には、連絡を取り、お会いさせていただく機会を設けている。また、長期入院となった利用者の生活支援も行っている。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話から利用者お一人おひとりの思いを把握するよう努めている。また、意思の疎通が難しい方もご本人の表情や行動、言葉の端々から気持ちを汲みとれるよう努めるとともに、ご家族からもお話しをお聴きし、利用者お一人おひとりが希望通りの生活を送られるよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者の日々の暮らしの中での言葉・表情・行動の中から思いや意向を把握できるよう、職員間でも常に意識し合うよう努めている。「新発見ノート」を作成し、利用者の様々な挑戦や新たに気付いた能力等を記録に残し、ケアの充実の為に参考にしている。</p>	
24			<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>理念の「今まで通りの生活」という意義の大切さを全職員が理解しており、個々の生活スタイルに沿った支援ができるようご本人、ご家族からの情報収集に努めている。センター方式のアセスメントを有効に活用することで、ご本人の生活歴やこれまでのサービス利用の経過等の把握を確実にしている。</p>		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はご本人の視点に立つことにより個々の暮らしの現状を把握できるよう努め、利用者の有する力の変化に柔軟に対応している。また、利用者がさまざまな挑戦をする中で、新しい能力や特技を発見したら記入し、日々のケアに役立てている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望、医師のアドバイスなどを考慮し、センター方式を活用してより良い介護計画の作成に努めている。特にアセスメントをチーム全員で行い、その内容とご家族からの情報を一つのとりまとめブックとして作成するという、「チーム・アセスメント」に取り組んでいる。	利用者の状況についてセンター方式を用いてアセスメントし、利用者主体の介護計画を作成している。計画は、毎月のモニタリングを参考に、定期的には3カ月に1回見直し、状態変化があれば随時変更している。今年度は、利用者・家族の意見を参考にしながら、職員全員がひとつのチームとしてアセスメントを行う、「チーム・アセスメント」に取り組み、より適確で迅速な対応にて計画の見直しやケアの工夫につなげている。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他の方との関わりが一目でわかるように利用者全員の日誌と、お一人おひとりの日々の積み重ねがわかるケース記録を残している。いずれも入居者の生きた証であるという意識を全職員は持ち、言葉や仕草、表情等を細かく記録し、介護計画の見直しに反映させている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の状況に応じて、話し合いを重ねながら通院や外泊のお手伝いをさせていただいている。重度化や看取りに関しても必要な医療との連携を図り、ご要望にお応えできるように尽力している。また、デイサービス利用により馴染みの関係作りをした上でスムーズに入居されるケースも多い。		
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通して地域の方々と情報交換をしたり、協力を得たりしている。また、教育機関等からの実習生、ボランティアも多数受け入れ、近隣保育園との交流も頻繁に行っている。近隣の方との積極的な交流の中で、ご本人が持つ力を存分に発揮できるような関係作りにも努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)		<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人・ご家族の希望に応じて、これまでのかかりつけ医、または近隣の医院や協力医療機関より医療を受けられるように支援している。また、利用者の健康面で些細な変化や心配事があれば、その都度気軽に相談できるよう、かかりつけ医との関係作りに努めている。</p>	<p>医療連携体制を整備し、看護師の資格を有する職員の配置により、日々の健康管理や医療ニーズに対して迅速に相談・対応ができるよう体制を整えている。利用者・家族の希望があれば、馴染みのかかりつけ医の通院や往診を支援し、受診状況を共有するために関係医療機関と連携を取り合っている。</p>	
31			<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師を介護職員として配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な支援が常に行える体制が整っている。日頃からケアに携わっている職員が看護師であるため、入居者だけでなくご家族からも安心して相談していただいている。</p>	/	/
32	(15)		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはホームからの情報をこまめに伝えるとともに、安心して病院で過ごすことができるように、職員や利用者が頻繁にお見舞いに行き、情報交換を行っている。また、入院によるダメージを最小限にとどめるため、早期退院に向けて病院やご家族との情報交換や相談に努めている。</p>	<p>利用者の入院時には、協力医やかかりつけ医と連携を図り、利用者の状態について入院先へ情報を提供している。職員は頻繁にお見舞いに行き、病院関係者や家族と情報交換を行い、入院による不安の除去や早期退院に向けた支援を行っている。</p>	
33	(16)		<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>普段より重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人、ご家族、かかりつけ医等と繰り返し話し、方針を共有するよう取り組んでいる。ホームとしても最期までその方らしく生活ができるようお手伝いをさせていただいている。</p>	<p>入居時に、利用者・家族に重度化や終末期ケアについてホームの方針を説明している。協力医や看護師との連携のもと、24時間体制で利用者の体調管理を支援している。医療処置を継続している利用者への対応や、重度化や終末期ケアについて、できる限り家族等の意向にそえるよう体制を整え、利用者の状態変化に伴う家族の不安を軽減する為に、かかりつけ医とも連携をとり、方向性を統一し対応していくよう配慮している。</p>	
34			<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>法人内部における急変時・事故発生時の対応に関する研修や、公的機関による市民救命士講習などを全職員が順次受講できるよう取り組んでいる。</p>	/	/



自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関する研修を法人内で実施しているほか、昼間時間帯・夜間時間帯を想定した避難訓練を行い、非常災害時に利用者の安全を守るように、日々意識を高めている。また、地域の協力も自治会を通じて呼び掛けていただき、緊急時には協力が得られるようになっている。	昼夜を想定した避難訓練を定期的実施するとともに、災害発生時に迅速に対処できるよう法人内での研修も行っている。日常的に交流のある自治会等を通じて、災害発生時の地域との協力体制を整えている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(18)		一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりが尊厳ある生活を送るお手伝いをするを理念に掲げ、プライバシーに関することについては取り扱いに細心の注意を払っている。また、職員は利用者に対して敬語でお話しすることを約束している。	職員は、利用者との家庭的で親しみのある関係を大切に、利用者への尊厳を損なわないような対応を心掛け、言葉かけは敬語を使って接する等細かい配慮がなされている。プライバシー保護について、制度面を含めた研修を定期的実施し、職員の意識浸透を図っている。		
37			利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どのような場合でも利用者が自分の思いと希望に添った選択をできることが「生活の主人公」であるという証だということを職員は理解し、その理念を実践する上で必ず依頼型でお話しすることを徹底している。意思表示が困難な方に対しては、表情や仕草から思いや希望を汲み取るようにしている。			
38			日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は「生活の主人公は利用者ご本人」という理念を常に確認し、実践に移している。毎日、今日一日をどのように過ごしたいのかをお聴きし、お一人おひとりの希望に添った生活のお手伝いをさせていただいている。また、利用者をご自分の希望を気軽に伝えやすい雰囲気作りにも努めている。			
39			身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさが失われないよう、その人らしい服装やお洒落を楽しんでいただくことを職員が心掛けている。近隣の行きつけの美容室では、利用者の好みのヘアスタイルを把握して頂いているのでご本人の思い通りのお洒落を楽しんで頂けるよう相談しやすい環境となっている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)		<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お一人おひとりの好みや力に応じて献立作りから調理、後片付けまで積極的に参加していただき、利用者と職員みんなで作り、食べる喜びを共有している。時には、利用者同士で声を掛け合い調理や片付けをされる場面もある。</p>	<p>利用者の希望に配慮した献立を職員と相談しながら作成し、調理・配膳・後片付け等一連の流れをホーム内で行い、利用者の関心や力量に沿って、自然に手伝っていただけるような支援がなされている。利用者の嗜好やその日の体調に配慮し、それぞれに合った食材や調理の工夫があり、個別対応にて楽しく食事ができるよう取り組んでいる。職員も同じテーブルで食事をとり、笑顔の多い、和やかな食事風景が見られる。</p>	
41			<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>職員が利用者とともに食事をする中で好みや食事・水分量を把握し、異変があれば職員間で共有している。また、食事・水分量が低下しつつある利用者は、その方の好みや生活習慣を再度見直し検討している。法人内の栄養士のアドバイスも受けている。</p>		
42			<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>歯科衛生士有資格者を介護職員として確保しており、定期的に利用者の口腔チェックを行っている。職員は口腔ケアの指導を受けながら、個々の口腔状態やご本人の力に応じたケアの方針を一緒に考え、口腔ケアのチェックリストも作成している。</p>		
43	(20)		<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>体調面だけでなく環境や心理面により排泄の状態が変化することを理解した上で、個々の排泄パターンを把握し、生活習慣に配慮しながら排泄の自立に向けてお手伝いさせていただいている。また、排泄用品の使用を減らせるよう、その方に合った排泄方法の検討を常にしている。</p>	<p>個々の習慣や体調等考慮し、それぞれに合った排せつパターンを把握し自立に向けた支援がなされている。排泄チェック表の記録を参考に、さりげない前誘導や見守りにてプライバシーに配慮した支援を行っている。</p>	
44			<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日々の食生活において、食物繊維の多い食品や乳製品、水分を多く摂っていただくように注意を払っている。また、散歩や体操などの運動を積極的にしていただけるようお一人おひとりの体調やペースに合わせて取り組んでいる。</p>		

自己	者 第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの希望に添った入浴の支援をしている。朝や夜間の入浴の際には、他のフロアとも協力しながらご希望に添えるようにしている。入浴の嫌いな方にも楽しく入っていただけるよう支援するとともに、ご自分から入浴したいと言っていただけのような雰囲気づくりや声かけも行っている。	個々の利用者の今までの習慣や希望に合わせた入浴支援ができるよう配慮している。午前中や夜間の入浴の希望があれば、職員間で協力しながら利用者の思いに沿った入浴ができるよう取り組んでいる。入浴拒否傾向がある場合は、本人の気分や行動にそって適切な声かけや対応を工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜にゆっくり休んでいただけるように、昼間の生活、就寝前のリラックスなど、生活全体をトータルで捉えて支援している。一律の就寝時間などは設けず、お一人おひとりの生活のペースを尊重している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬担当者を直で、主職員が薬の内容を把握できるよう、薬リストをファイルし活用している。服薬時には、きちんと服薬できているか最後まで確認することを徹底し、副作用や身体状況の変化に常に注意を払っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのこれまでの人生をよく知り、楽しみごとを継続していただいたり、役割を持っていただけるよう支援している。また、「発見シート」を活用しながら、様々なことにチャレンジし、喜びへとつながるよう支援している。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者お一人おひとりの希望に応じて、毎日外出できるように支援している。また、馴染みの場所、普段は行けない場所へもご本人の希望に添えるよう、ご家族と協力しながら実現している。沖縄や城崎温泉、有馬温泉へ行かれた方もいる。	散歩や買い物は、利用者の状況や天候などを考慮しながら毎日継続している。地域住民との連携のもと、地域行事や催しに参加する機会も設けている。また、思い出の場所・行きたい場所等の希望があれば、家族の協力を得ながら、個別対応に支援できるよう取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さを理解し、利用者お一人おひとりの状況に応じて所持していただき、お金を所持していることから安心感も生まれ、買い物への意欲が高まっている。金銭管理が難しい方でも、支払いの際に、お店の人に直接渡していただけるように支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が好きな時にご家族や友人に電話を掛けられるように支援している。また、暑中見舞いや年賀状等、時候に応じて手紙のやりとりができるようお手伝いをさせていただいている。		
52	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下などの共用空間には利用者と共に季節の花や写真を飾ったりし、生活感や季節感を演出するようにしている。また、天窓を利用したりして、自然の音や光、風をうまくいかすことによって、居心地のよい空間作りに努めている。	各フロアは、個々の利用者の思いが反映され、各フロアの個性を大切に空間となっている。季節の花や飾り付から四季の変化が感じられ、利用者の趣味の作品が、フロアの雰囲気を壊さないよう工夫し掲示してある。利用者と職員がさりげなく寄り添い気軽な会話が楽しめる場所や、一人で過ごせるスペースも確保され、気配りが感じられるテーブルやソファの配置となっている。		
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの随所にソファやテーブルセットを設置することで、お一人で過ごしたり、気の合う方とのんびり語らえたりするスペースとなっている。また、共用スペースには必ず季節の花や思い出の写真を飾ることで、自然とリラックスできる空間作りに配慮している。		
54	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、ご家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や思い出の品々をたくさん持ち込まれ、ご自分だけの寛げるスペースとなっている。ご自分でできない方も、これまでの生活習慣や好みをお聴きしながら、一緒に大切な空間作りのお手伝いをさせていただいている。	個々の居室には馴染みの家具や使い慣れた裁縫箱・趣味の作品等が持ち込まれ、落ち着いた時間が過ごせる設えとなっている。利用者の趣味を活かしベランダに花や観葉植物の鉢を置き、利用者自身が水やり等の世話が楽しめるような配慮がなされている。		
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じ、「できること」や「わかること」を生かした環境づくりに努めている。混乱や失敗が生じた際には職員がさりげなくフォローし、環境整備の更なる改善へつなげている。また、家庭的な雰囲気を大切に、利用者が自分の力を発揮しながら安全に自立した生活を送れるように工夫している。		